

親子4人で織りなす ハーモニー・ 家族コーラス「左座家」

奇跡的な家族

「あなた方こそ、合唱の原点。どうぞこれからも続けてください」

「奇跡的な家族ですね」

2010年3月、福島市音楽堂で開催された少人数の合唱コンクール「第3回声楽アンサンブルコンテスト全国大会」に一般部門の熊本県代表として出演した私たち4人親子が「審査員特別賞」を受賞した際、審査員から掛けていただいた言葉です。

家族コーラスの結成

家族コーラス「左座家」は、私と妻、そして長男、長女（いずれも大学生）の4人のグループです。長男が小3、長女が小2

だった2002年12月に結成。翌年2月に始まった少人数による合唱アンサンブルの大会「熊本県ヴォーカルアンサンブルフェスティバル」がきっかけでした。もともと、家族で、何らかの形で舞台に立ち、できれば将来「全国大会」を目指したいと思っていた私にとっては、絶好のチャンスでした。小学生のころから歌い続けている妻は、結成の際「親の趣味に子どもたちを巻き込むのはいかなものか」と反対していました。私は、家族で一緒の舞台に立つことが一つの夢であり、子どもたちの気持ち次第と妻を説得。子どもたちの答えは「やってみよう」でした。そして初舞台。「七つの子」「アイスクリームの歌」を子どもたちにもハモリを担当させながら四部合唱で演奏したところ、会場は割れんばかりの大拍手。大会終了後、

子どもたちは観客の方々から「ありがとう。素晴らしい。また来年も聴かせてほしい」とのお声掛けをいただき、そのことがきっかけで、これまで長く歌い続けることとなりました。家族ならではの声質を生かしたハーモニーと、言葉を大切にした歌唱をモットーに練習を重ね、その後、障がい児支援サークルや小学校での演奏、全国童謡歌唱コンクールでの優勝（2004年）、声楽アンサンブルコンテスト全国大会での特別賞受賞（2010年）など、県外の合唱関係者にも知られる存在となりました。結成当初は、童謡・唱歌を中心に歌っていましたが、その後、子どもたちが成長するにつれ、ポップスの合唱アレンジや一般の合唱曲にも取り組むようになり、日本語だけでなく、ラテン語や英語の楽曲にも取り組んでいます。



左座 守

熊本県議会事務局議事課主幹

【どうぞ まもる】熊本県牛深市（現：天草市牛深町）出身。高校卒業後、熊本県庁に入庁し、熊本商科大学（現：熊本学園大学）商学部卒業。甲佐グリーンハーモニー、熊本県庁合唱団、人吉女声合唱団「川千鳥」、ざらり（混声）の各指揮者。家族コーラス「左座家」主宰。一般社団法人波の会日本歌曲振興会会員（声楽）、熊本県文化懇話会会員（洋楽）、熊本県民第九の会特別会員、熊本県合唱連盟理事。

家族コーラス「左座家」のデビューステージ(2003.2.9)
会場は割れんばかりの大拍手でした



撮影：ユー・ツークラシカルレコーディング

これまで熊本で2回開催した単独コンサート(いずれも300席が満杯になりました)や、京都の音楽祭へのゲスト出演、島根県松江市での単独コンサートと、県外での演奏機会も増えています。2013年6月に開設したYouTubeチャンネルは、1年間で再生回数が4万回を超えました。

家族で目標を共有

子どもたちが思春期、反抗期(反抗期はほとんどありませんでしたが)を通過した

中で、10年以上も親子で歌い続けることができた理由…、それは、初舞台以来、私たちの歌を聴いて、喜んでいただけの方々がいらつしやること。それが励みとなり、さらに、コンクールへの挑戦が「さらにはいい音楽を目指す」という共通の目標を家族で共有できていることが大きいと思います。

家族コーラスの練習は、コンサート等、出演が決まってから集中して行っています。練習では、音楽の流れを重視する妻、(若い分、音感に長けているため)音程に厳しい子どもたち、そして言葉の発音や抑揚に厳しい私…それぞれの得意分野を最大限生かしながら、音楽づくりに励んでいます。

私自身、これまで二十数年間、いろいろな合唱団で歌い、その後、指揮もするようになり、現在、家族コーラス以外に4団体を指揮・指導していますが、その中で最も厳しい練習は「家族コーラス」です。お互い容赦なく指摘しあうため、衝突も絶えません、いい音楽ができたときの喜びは何物にも代えがたいものがあります。そして、妻と子どもたちは、私の音楽についての一番の理解者でもあり、現在は、私が指揮しているほとんどの団体が家族も歌い、指導の際、私が気付かない部分のフォローもしてもらっています。

子どもたちの大学受験の期間が予定より長くなり、その間は活動休止しましたが、2人とも地元熊本の大学に進学し、この春、活動を再開しました。当面、子どもたちが

大学を卒業するまでは活動期間が確保され、ホッとしています。早速、いくつかオフアームも受けています。個人的には、将来的に「三世代合唱団」を目指したいと思っていますが、この件に関して、子どもたちは、かつての妻と同じ反応です…。でも、きつと叶うのではと思っています。

今年5月には、新たな挑戦として、ブログでの呼びかけを行い、私たちの取り組みや音楽性に共感いただいた十代から六十代までの6人とともに、10人で新しい合唱団も結成。7月に行われた熊本県合唱コンクールでは、結成2カ月足らずで金賞を受賞し、九州大会への出場権を得ることができました。この取り組みの様子は、大会直後に熊本県内ローカルのニュースワイド番組でも紹介され、大きな反響がありました。

家族関係の希薄化が嘆かれる昨今、音楽以外ではさほど仲が良いわけでもないものの、歌を通じて、目標を共有し、前進する私たち家族の活動が、一つの理想形と映るのかもしれない。

私の音楽経歴

そもそも私自身は、中・高、そして熊本県庁入庁後も吹奏楽団に在籍し、パーカッション(打楽器)奏者として活動していました。歌は、どちらかと言えば「カラオケ」が好きで、NHKのご自慢は3回出場し、いずれも「三つ鐘」は鳴らしたものの、チ

単独コンサートでは、満席、というか客席の椅子が足りない事態に…。
第1回演奏会(2006.2.26)より。



チャンピオンには届かず…。3回目の出場直後、審査員の一人から「あなたの歌には味がない」と言われた一言は、少なからずショックでしたが、その一言が、その後の私の音楽活動の「バネ」にもなっています。
合唱を始めたきっかけは、1989年、25歳、当時の職場(熊本県球磨事務所)のワーキンググループで「音楽の郷づくり」について検討する際、取材した熊本県人吉市の合唱団で、知人の中学教諭が指導しており、誘われるままに入団。その後、転勤をきっかけに入団した熊本市内の合唱団で妻と知り合い、結婚を機に、活動の中心が吹奏楽から合唱に移り、常に複数の団体が歌い手として活動を続けました。

その後、自宅のある甲佐町の合唱団で二代目指揮者に就任、さらに家族コーラスの結成、そして熊本県庁合唱団の五十数年ぶりの再結成、そしてそれぞれの全国大会での入賞と、いつのまにか、県職員でありながら、むしろ合唱人として知られる存在となっていました。

私自身は、高校での芸術の授業は書道を選択したこと、音楽は中学校までしか授業を受けず、またピアノも弾けないのですが、パソコンソフトを駆使し、練習時もピアノ部分をパソコンで演奏するなどしています。本当に便利な時代となりました。もちろん、合唱を始めて以来、信頼のおける素晴らしいピアニストに恵まれたことも幸せなことだと思っています。

指揮を始めてから、個人としての合唱指導の幅を広げるため、全国的な合唱のセミナーに積極的に参加しているほか、表現の幅を広げるために独唱にも挑戦し、北海道旭川市で開催されている「中田喜直記念コンクール」での金賞受賞、日本歌曲振興会・日本歌曲コンクール入賞と、音楽大学の声楽科を卒業した方々がひしめく大会でも何とか入賞できるようになりました。合唱を通じて発声や言葉の処理技術を培った知識・技術を日本歌曲の独唱に生かしたのですが、これまで素晴らしい先生方にご指導いただいたことが結果につながったと思います。ちなみに昨年は、全国童謡歌唱コンクール大人部門に妻とのデュエットで出場

し、第2位(銀賞)を受賞することができました。

熊本県庁合唱団

先述のとおり、私は現在、家族コーラス以外に4つの合唱団で指揮・指導を担当しています。このうち「熊本県庁合唱団」は、熊本の文化向上の一翼を担いたい、2006年2月、五十数年ぶりに再結成した団体です。

結成にあたって、熊本県職員の方で、合唱経験者として私が把握していた方々に対し、結成に向けてのアンケートメールを送りし、そこから輪が広がって二十数人が集まり、活動が始まりました。合唱経験者



コンサートではポップスも歌います。この写真はサーカスのヒット曲「アメリカン・フィーリング」です。第2回演奏会(2011.1.22)より。

熊本県庁合唱団で出場した全日本合唱コンクール。
職場部門最後の全国大会。念願の「金賞」！



はそれほど多くなく、一方、初心者も多く在籍するなど「一からのスタート」となった中で、当面の目標として、全日本合唱コンクール職場部門「金賞」を掲げました。周囲からは「またまた無謀な…」と言われましたが…。

コンクール挑戦が始まって最初のうちは、九州大会でライバル合唱団にまったく歯が立ちませんでした。5年目の2010年、そして7年目の2012年と全国大会に推薦され、2012年の全国大会（富山市で開催）職場部門では、目標だった「金賞」

を受賞しました。

人員の削減などで、何かと職場に余裕がなくなり、横の連携も取りにくい状況となってきましたが、こういう時代だからこそ、同じ県庁の仲間が力を合わせて、いい音楽を目指す、という私たちの活動は、意義深いことだと思っています。

2013年の合唱コンクールから「職場部門」のカテゴリーがなくなり、一般の合唱団と同じ部門で競うこととなりましたが、昨年、今年と熊本県大会では職場一般部門で2年連続1位となり、執筆している現在（7月下旬）は、昨年果たせなかった全国大会を目指し、9月に行われる九州大会に向けて精進を重ねているところです。

音楽で生活が充実・常に向上を目指して

私自身は、中学生のころから、常に「音楽」にかかわって生活してきました。特に、合唱を始めてからは、ステージに立つ回数も増え、最近では本番の緊張感を心地よく感じることができるようにもなってきました。私生活が音楽活動で充実していることが、仕事にも好影響を及ぼしており、メリハリのある毎日を過ごすことができていると思います。もちろん、組織、職場の上司、同僚の皆さんの理解があつてのことであり、あらためて感謝しています。

いろいろな団体で、いろいろな方々と親

しく活動させていただくことで、人脈も広がり、仕事で助けられることも多くあります。仕事が終わった後や休日も、そのほとんどの時間を合唱に費やしていますが、常に目標があり、「生き生き」と過ごすことができていると思います。これは、家族の理解、というかともに活動し、サポートしてもらっていることが大きいと思います。

今後とも、かかわっているそれぞれの団体で、常に向上を目指し、いい音楽をつくりあげていきたいと思っています。

当面の大きな目標は…「家族で紅白歌合戦に出場すること」です。さすがに出場歌手としては難しいかもしれませんが、何らかの形でステージに立つことは可能ではないか、と思っています。周囲からは「またまた無謀な…」と言われていますが…。

